

[成果情報名] ウンシュウミカン「原口早生」における日焼け果が発生する着果条件

[要約] ウンシュウミカン「原口早生」の満開後 120 日頃の日焼け果の発生は、果実が小さく、着果の傾きが下向きな果実ほど少ない。また、果実の傾きが 45 度以上になると日焼け果の発生が多くなる。

[キーワード] ウンシュウミカン、原口早生、日焼け果

[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 普及

[作成年度] 2025 年度

[背景・ねらい]

近年の高温・強日射により、ウンシュウミカンでは日焼け果の発生が増加しており、果実の外観や品質の低下を招き、商品価値の低下や所得の減少につながっている。そこで果実の着果状況と発生状況の関係を明らかにし、日焼け対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

- 1 . 日焼け果の発生していない果実は、果梗枝径が細く、果実横径が小さい。また、日焼け果の発生がない果実は、果実の傾きが小さい下向きの果実である (表 1) 。
- 2 . 日焼け果の発生割合は、果実の傾きが小さい下向きの果実で少ない。果実の傾きが 45 度以上になると発生割合は約 60% 以上となり日焼け果の発生が多くなる (図 1) 。
- 3 . 日焼け果の発生は果頂部の方角による影響が少ない (図 2) 。

[成果の活用面・留意点]

果実の傾き (角度) については右図のとおりである。

[試験の概要]

- ・ 場内に植栽された「原口早生」7 年生、11 年生の樹の赤道部の果実 140 果を調査した。
- ・ 樹冠下のシートマルチは、タイベック 760AG を用い、7 月 21 日に被覆した。
- ・ 日焼け果の調査は満開後 120 日頃の 8 月 29 日、9 月 4 日に調査した。
- ・ 日焼け果は、果皮の色が緑色から黄色に変色した状態 (右図) を日焼け果とした。

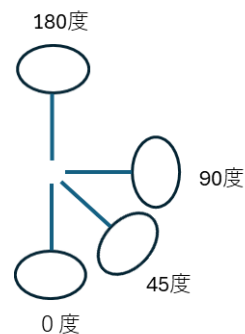


図 果実の傾き



図 日焼け果の状態

[具体的データ]

表 1 日焼けの有無と果実の着果状況

日焼けの有無	横径 (mm)	果梗枝径 (mm)	果実の傾きの度 (度)
無	48.8	3.0	48.5
有	53.1	3.3	69.0
有意差*	**	**	**

* : **は t 検定により 1%水準で有意差あり

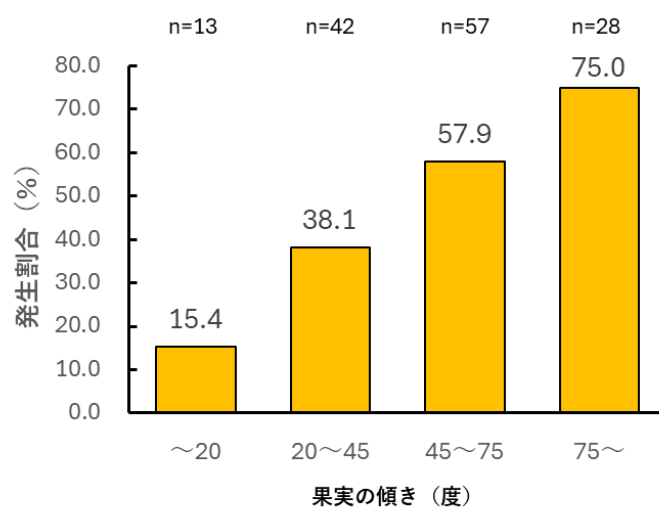


図 1 果実の傾きと日焼け果実の発生割合 (%)

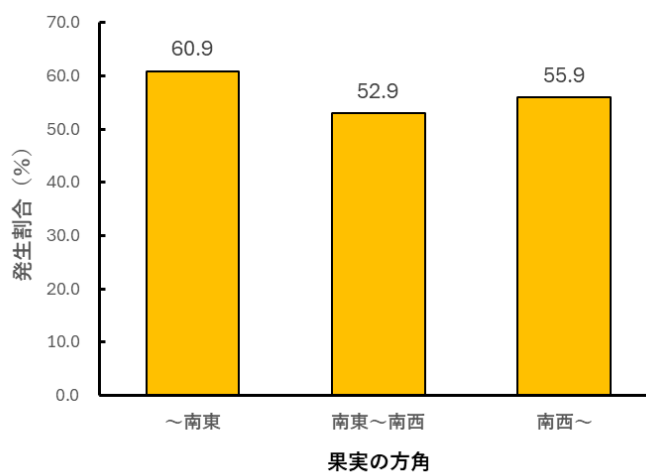


図 2 果実果頂部の方角と日焼け果の発生割合

[その他]

研究課題名：ながさき気候変動総合対策事業

予算区分：県単（行政要望）

研究期間：2025～2027 年度

研究担当者：中里一郎